



学校だより

広島市立彩が丘小学校
平成22年10月号(14)
佐伯区河内南二丁目10-1
Tel 928-1239

秋冷の候、保護者の皆様にはご健勝のこととお喜び申しあげます。日頃より本校教育推進のためご理解ご協力いただき心より感謝しております。

さて、本年度4月21日に実施いたしました全国学力状況調査の考察ができましたので、今回の学校だよりで報告させていただきます。

1 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。

2 調査方法

本校を含め、文部科学省の抽出調査以外の学校は、問題等の提供を受け、学校毎に調査を実施しました。

3 調査実施学校数(公立学校)等

	抽出調査実施校(校)		調査実施者数(人)		
	国	県	国	県	彩が丘小
小学校6学年	5,372校	137校	264,193人	6,276人	65人

4 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語・算数)

主として知識に関する問題(A問題)

身に付けておかなければ後の学年等に影響を及ぼす内容
実生活において不可欠であり常に活用できるようにしていることが望ましい知識・技能など

主として活用に関する問題(B問題)

知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力
様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

(2) 生活習慣や学校環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習習慣、生活の諸側面等に関する調査

5 各教科の平均正答率

国語						算数					
A問題			B問題			A問題			B問題		
全国	県	本校	全国	県	本校	全国	県	本校	全国	県	本校
83.3	85.3	83.4	77.8	81.1	75.4	74.2	77.3	79.2	49.3	51.9	59.6

6 各教科の調査結果の概要と指導方法等の改善計画

(1) 国語

【領域ごとの定着状況調査】

【領域ごとの定着状況調査】

国語A	領域	平均正答率(%)		
		全国	県	本校
	話すこと・聞くこと	83.2	86.7	87.7
	書くこと	67.7	70.4	68.0
	読むこと	74.1	76.5	70.8
	言語事項	85.8	87.5	85.8

国語B	領域	平均正答率(%)		
		全国	県	本校
	話すこと・聞くこと	75.4	79.3	79.6
	書くこと	91.6	93.2	76.2
	読むこと	73.4	76.9	70.8
	言語事項	73.0	75.6	67.7

定 着 状 況	
A 問題では、「言語事項」領域で、漢字を書いたり読んだりはおおむねできていた。 A・B 両方の問題で、「話すこと・聞くこと」領域の正答率が高い。	
主 な 課 題	要 因
「読む」領域では、物語のあらすじを読み取ったり、理由を明確にして、物語の感想をまとめたりすることに課題がある。 「書く」の領域の定着率が低く、2つの意見の相違点や共通点を整理し文章に書くことが難しかった。また、メモから適切な文に直す問題の定着率が低い。	物語のあらすじを読み取って書いたり、理由を明確にして感想を考えたり書いたりする活動が十分でない。 2つの考えを比較して共通点や相違点を見つけ出し書くような活動に親しんでいない。
課題解決に向けた国語科における具体的実践	
自分の考えが明確になるように、事実と感想、理由と根拠などを区別して表やノートにまとめていく活動を取り入れる。 書いたものを読み合い、感想や意見を述べたり、表現の仕方に着目して助言し合ったりする活動を取り入れる。書く活動の中で、自分の考えが分かりやすく表現されているか、読み手に評価してもらう活動を取り入れる。 複数の情報を比べて読むなどの効果的な読み方を工夫する。 様々な分野の本や文章を読み、読書の範囲が広がられるように指導する。	

(2) 算 数

【領域ごとの定着状況調査】

算数 A	領域	平均正答率(%)		
		全国	県	本校
	数と計算	74.1	75.8	76.5
	量と測定	74.1	77.9	81.2
	図形	83.1	85.6	87.2
	数量関係	65.7	71.8	74.9

【領域ごとの定着状況調査】

算数 B	領域	平均正答率(%)		
		全国	県	本校
	数と計算	55.8	57.0	49.2
	量と測定	33.3	39.4	47.7
	図形	42.0	46.0	50.6
	数量関係	54.3	56.0	68.7

定 着 状 況	
A 問題では、「数と計算」の領域においておおむね定着していた。 B 問題では、「量と測定」「図形」「数量関係」の領域において定着率が平均より高い。	
主 な 課 題	要 因
数量関係の四則計算の優位順位の理解が不十分である。 単位料あたりの計算の意味がよく理解できていない。 割合の意味、求め方の理解が不十分である。 少数の除法の意味を理解し、適切に用いることが不十分である。 図形を表現する記述式の問題では、正答率が低い。また、無回答率が14%と高い。合同の意味や図形を表現する仕方を理解していない。	くり返しによる定着が図れていない。 記述式の問題に不慣れである。
課題解決に向けた国語科における具体的実践	
計算の順序について習熟を図り、四則計算の計算問題をくり返し練習する。 数量の関係をとらえるため、数量をテープ図や線分図に表す活動を取り入れる。 問題に示された数値や条件を元に。言葉や式、図を用いて筋道を立てて考え、問題解決能力を養う。(思考過程を記録したり説明したりする活動を取り入れる) イメージがもてるよう、算数的活動を取り入れる。	

7 学力向上に向けた全校的な取組（課題解決に向けた具体的実践）

15分間の帯タイムで、国語、算数の基礎学力の向上を目指す。国語の帯タイムでは、年間指導計画を立て、読解力を高めるため短い文章の読み取り練習を行う。
ペアや小グループでの協同学習を取り入れ、意見を伝え合ったり、考えを説明し合ったりする活動を積極的に取り入れる。

8 生活習慣や学校環境等に関する質問紙調査の概要と改善計画

定 着 状 況	
児 童 生 徒 に 対 す る 調 査	<p>肯定的に答えた児童が 90% を超えていた質問項目は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ものこを最後までやりとげてうれしかったことがある。(98.5%) ・ 友達との約束を守っている。(98.5%) ・ 近所の人に会ったときはあいさつをしている。(96.9%) ・ 人の役に立つ人間になりたいと思う。(96.9%) ・ 好きな授業がある。(96.9%) ・ 朝食を毎日食べている。(95.4%) ・ 将来の夢や目標をもっている。(95.4%) ・ いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思う。(95.4%) ・ 友達に会うのは楽しい。(93.8%) ・ 普通の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う。(93.8%) ・ 毎日、同じぐらいの時刻に起きている。(92.3%) ・ 国語の勉強は大切だと思う。(92.3%) ・ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つと思う。(90.8%) ・ 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う。(90.8%)
	主 な 課 題
	<p>肯定的にとらえている児童が 50% 以下の項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家で学校の授業の予習をしている。(40%) ・ 家で学校の授業の復習をしている。(35.4%) ・ 家で苦手な教科の勉強をしている。(35.4%) ・ 家でテストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強している。(41.5%) ・ 国語の勉強は好きである。(49.2%) ・ 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている。(47.4%) <p>課題を含んだ項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一日あたりのテレビやビデオ、DVD の視聴時間が 3 時間以上の児童 (49.2%) ・ 一日あたりのテレビゲームをする時間が 3 時間以上の児童 (13.8%) ・ 月曜日から金曜日、一日あたりの家での学習時間が 1 時間未満の児童が (32.3%)
	課題解決に向けた取組
	<p>定着状況から、規則正しいリズムで生活し、前向きに成長しようとしている子どもたちの姿が伺えました。本校では、家庭学習時間「学年×10分(低学年は30分)」を目標にしています。お子さんが落ち着いて学習できる環境をつくり、家庭学習の習慣がしっかり身につくように、今後も家庭と連携しながら取り組んでいきたいと思ひます。</p>